

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成24年7月12日(2012.7.12)

【公開番号】特開2011-36739(P2011-36739A)

【公開日】平成23年2月24日(2011.2.24)

【年通号数】公開・登録公報2011-008

【出願番号】特願2009-183617(P2009-183617)

【国際特許分類】

B 05 B 5/057 (2006.01)

F 24 F 1/00 (2011.01)

B 05 B 5/08 (2006.01)

A 61 L 9/14 (2006.01)

【F I】

B 05 B 5/057

F 24 F 1/00 371 B

B 05 B 5/08 B

A 61 L 9/14

【手続補正書】

【提出日】平成24年5月25日(2012.5.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

この発明に係る静電霧化装置は、水供給部と、

多孔質体から形成され、前記水供給部から水を受け取り、高電圧が印加されることで前記水を先端霧化部で霧化させる水印加電極と、を備えた静電霧化装置であって、

前記水供給部は、

ペルチェユニットと、その放熱面に接する放熱部と、前記放熱面の反対側に位置する冷却面に接し、前記水印加電極へ供給する水となる結露水を生成する冷却部と、を有し、

前記冷却部の大きさは、前記放熱部より小さく、

前記放熱部は、少なくとも前記冷却部の左右には、前記放熱面と接する面上に前記ペルチエユニットから露出している放熱露出部を有し、

前記冷却部の左右両側にそれぞれ、前記放熱露出部を通過した空気が前記冷却部へ来ることを阻止する遮断壁を設けたことを特徴とする。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

この発明に係る静電霧化装置は、水供給部から供給された水を早く確実に水印加電極の先端霧化部に導くことができ、運転開始から短時間で多くの量の静電ミストを安定して発生させることができるとともに、遮断壁により、放熱した空気が冷却部に流れ込まないので、冷却性能を落とさず、確実に水が得られるという効果を有する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

水供給部と、

多孔質体から形成され、前記水供給部から水を受け取り、高電圧が印加されることで前記水を先端霧化部で霧化させる水印加電極と、を備えた静電霧化装置であって、

前記水供給部は、

ペルチェユニットと、その放熱面に接する放熱部と、前記放熱面の反対側に位置する冷却面に接し、前記水印加電極へ供給する水となる結露水を生成する冷却部と、を有し、

前記冷却部の大きさは、前記放熱部より小さく、

前記放熱部は、少なくとも前記冷却部の左右には、前記放熱面と接する面に前記ペルチエユニットから露出している放熱露出部を有し、

前記冷却部の左右両側にそれぞれ、前記放熱露出部を通過した空気が前記冷却部へ来ることを阻止する遮断壁を設けたことを特徴とする静電霧化装置。

【請求項2】

前記放熱部は、前記冷却部を通過する空気流に対して前記冷却部より上流側にも、前記放熱面と接する面に前記ペルチエユニットから露出している放熱露出部を有し、その上流側にある放熱露出部は、樹脂でカバーされていることを特徴とする請求項1に記載の静電霧化装置。

【請求項3】

室内空気を吸い込む吸い込み口と、

この吸い込み口から吸い込まれた室内空気と冷凍サイクルの冷媒とを熱交換させ、室内空気から調和空気を生成する熱交換器と、

前記調和空気を室内へ吹き出す吹き出し口と、

空気流における前記吸い込み口の下流側であって、前記熱交換器の上流側に設置された請求項1または2に記載の静電霧化装置と、を備え、

前記吹き出し口から前記調和空気とともに、前記静電霧化装置が生成した静電ミストを室内に放出することを特徴とする空気調和機。